

## 3年目を迎えた「こども教育学部」のさらなる発展を願って

こども教育学部 本山 益子

2020年4月にスタートした「こども教育学部」は、はや3年目を迎えている。当初私は、教務委員として、2年目は学科長として教育福祉心理学科との2つのカリキュラムの調整に気を配ることで精一杯であった。現在、教育福祉心理学科に在籍する最後の学年の卒業を待つばかりになり、微力ながら、前任者から引き継いだ重責を果たし、新体制にバトンタッチできつつあるように思う。つまりそれは、本格的にこども教育学科のカリキュラム運営の仕事を担う始まりということでもある。

当学部の幼児教育コースでは、保育士資格と幼稚園教諭1種免許状のWライセンスの取得が可能になり、開講科目数や現場実習の数が増えた。2年目からは人気が高まり、今まで経験したことのない学生数への支援や教育者の質の向上に向けた課題が増え、私たちには従来にも増して指導力の改善が求められているといえよう。

特に、2020年から拡大したコロナウイルスは変異を繰り返し、いまだに感染の波が襲ってきている。そのような中、高等教育機関、教育内容の検証と改善・研究の結実に加え、学内運営の健全化や地域貢献の充実が求められている。高等教育機関の職にあり、社会的使命を担う者であるとわかってはいても、全てに手が回らないジレンマに陥る教員は、おそらく私だけではないだろう。何を犠牲にしているのだろうか。研究であってはならないとの思いとは裏腹に、今回、私は締め切りを前にしながら、研究成果がまとめられなかった。1年に最低1本の投稿を自身に課し、実行していた若い頃を振り返り、自らの不甲斐なさを情けなく思う。と共に、多忙な職務をこなされながらも、今回投稿までたどり着かれた先生方に、只々、敬意を表する次第である。

今後ますます、私たちには自身の研究時間を割り、学生指導に取り組まなければならない状況が訪れるのだろうか……。多くの先生方が、ご自身の専門分野の研究を進められ、本紀要に投稿されることを願い、その為の環境が整うよう尽力しようと考えている。